国際医療福祉大学　2014年4月26日発行　学校法人国際医療福祉大学　☎0287-24-3000
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

vol.97
April
2014

International University of Health and Welfare

平成25年度 学位記授与式

平成26年度 入学式

IUHW International University of Health and Welfare
vol.97 April 2014 CONTENTS

特集1 平成25年度 学部・大学院 学位記授与式

2 学部卒業生・大学院修了生概要
4 北島政樹学長式辞
矢﨑義雄総長式辞
津久井富雄大田原市長祝辞

5 大学院長賞
大田原各学科選抜

特集2 平成26年度 学部・大学院 入学式

8 学部新入生・大学院新入生概要
津久井富雄大田原市長祝辞
9 北島政樹学長式辞
天野隆弘上席副大学院長式辞

キャンパスレポート

10 第20回 福岡キャンパス
11 第34回 大川キャンパス
12 第30回 小田原キャンパス
13 第4回 大学院
第12回 塩谷看護専門学校

14 新任のごあいさつ

15 施設インフォメーション
国際医療福祉大学塩谷病院／国際医療福祉大学病院／
国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院

16 トピックス
第1回日本ウズベキスタンフォーラムの開催報告／栃木県骨髄バンク事業功労者として感謝状を授受／平成25年度卒業前研修会／臨地実習指導者会議開催

17 冬季海外保健福祉事情
オーストラリア研修

18 同窓会通信
19 生涯学習のご案内

20 学生投稿ページ

●大田原キャンパスでは、新年度の授業開始に合わせるように桜が満開になりました。

特集1

平成二五年度 学部・大学院 学位記授与式

小田原キャンパス・福岡キャンパス・大川キャンパスの学位記授与式の様子は10～12ページに掲載しています。

三月一二日、大田原キャンパスにおいて「平成二五年度学位記授与式」が行われた。

校歌『未来（あす）への扉』の斉唱に続き、北島政樹学長から学部卒業生総代の亀田恵さん（作業療法学科）へ、杉原素子副大学院長から修了生総代の結城俊也さん（医療福祉学研究科　博士課程）へ、それぞれ学位記が手渡された。

●学位記を受け取る亀田恵さん

●学位記を受け取る結城俊也さん

さらに、各学科の学業最優秀者に「学長賞」が、博士課程・修士課程の研究業績優秀者に「大学院長賞」が授与された。

北島学長、矢﨑義雄総長の式辞に続き、来賓の大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・大塚崇央様より祝辞をいただき、さらに祝電が披露された。

亀田恵さんの「卒業生謝辞」、結城俊也さんの「修了生謝辞」、佐久間達生さん（理学療法学科）の「卒業記念品贈呈」をもって無事に閉式。その後はそれぞれ「学科別（大学院）学位記伝達式」に臨んだ。

●「大学院長賞」が授与された研究業績優秀者

●「学長賞」が授与された各学科の学業最優秀者

平成二五年度 学部卒業生・大学院修了生 概要

■学部卒業者　合計　1239名
保健医療学部　合計　539名

- 看護学科　125名
- 理学療法学科　96名
- 作業療法学科　76名
- 言語聴覚学科　74名
- 視機能療法学科　45名
- 放射線・情報科学科　123名

医療福祉学部　合計　168名

- 医療福祉学科　2名
- 医療福祉・マネジメント学科　166名

薬学部　合計　128名

- 薬学科　128名

小田原保健医療学部　合計　157名

- 看護学科　53名
- 理学療法学科　60名
- 作業療法学科　44名

福岡看護学部　合計　97名

- 看護学科　97名

福岡保健医療学部　合計　150名

- 理学療法学科　76名
- 作業療法学科　37名
- 言語聴覚学科　37名

■大学院修了者　合計　210名

□**修士課程　合計　179名**

医療福祉学研究科　合計　178名
保健医療学専攻　115名
医療福祉経営専攻　39名
臨床心理学専攻　24名
薬科学研究科　1名
生命薬科学専攻　1名

□**博士課程　合計　31名**

医療福祉学研究科　31名
保健医療学専攻（論文博士8名を含む）　31名

■学長賞

保健医療学部
- 看護学科　馬場美和
- 理学療法学科　佐久間達生
- 作業療法学科　亀田恵
- 言語聴覚学科　亀井ももこ
- 視機能療法学科　平山真奈美
- 放射線・情報科学科　髙見光咲
- 医療福祉学部　125名
- 医療福祉・マネジメント学科　塩野谷結実

薬学部
- 薬学科　根来加菜子

小田原保健医療学部
- 看護学科　田中優大
- 理学療法学科　島田真衣
- 作業療法学科　鈴木美咲

福岡看護学部
- 看護学科　吉村小夜子

福岡保健医療学部
- 理学療法学科　堤まどか
- 作業療法学科　坂井和美
- 言語聴覚学科　田口智子

■大学院長賞

博士課程
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野　結城俊也

修士課程
- ナースプラクティショナー養成分野　難波めぐみ
- 視機能療法学分野　山田明子

■卒業する留学生

保健医療学部　理学療法学科
- 邵 双燕（ショウ・ソウエン）＝中国
- 趙 相大（チョウ・サンデ）＝韓国

医療福祉学部　医療福祉・マネジメント学科
- KEOMANY PALOMA（ケオマニー・パロマ）＝ラオス

■修了する留学生

修士課程
- 李 振媛（リ・シンエン）＝中国
- 劉 礼洋（リュウ・レイヨウ）＝中国
- 金 泰延（キム・テジョン）＝韓国
- 金 景子（キム・キョンジャ）＝韓国
- 丁 逸晨（ティン・イシン）＝中国
- 郭 延洲（カク・エンシュウ）＝中国
- 張 明暉（チョウ・ミンキ）＝中国
- 張 鈺瑩（チョウ・ギョクエイ）＝中国
- 張 明東（チョウ・ミントウ）＝中国
- 李 麗（リ・レイ）＝中国
- 周 丹陽（シュウ・タンヨウ）＝中国
- 李 徳盛（リ・トクセイ）＝中国

【博士課程修了者（論文博士を含む）】

- **関 敏（ミン・ミン）（福祉支援工学分野）**＝中国
『施設における認知症高齢者の徘徊行動の評価 ―活動量計を手がかりに―』
- **阿部眞澄（診療情報管理・分析学分野）**
『肺炎における年齢による治療内容および診療報酬の相違 ―DPCデータから見えるもの―』
- **江戸優裕（福祉援助工学分野）**
『踵骨 ―下腿の運動連鎖の動態解析』
- **甲斐健太郎（医療福祉経営学分野）**
『鎮痛剤使用の国内外差による薬剤・医療費への影響及び国内外差が生じた要因考察』
- **菊池昭江（看護学分野）**
『高度な看護を実践する専門職業人に至る自律性形成モデルの構築』
- **GYAWALI BIJAY（ガワリ・ビゼイ）（医療福祉学分野）**＝ネパール
『Mental Health and Welfare in Post Conflict Setting: A Study from Highly Conflict Affected Area in Nepal』
- **小林薫（理学療法学分野）**
『敏捷性に着目した転倒ハイリスク者のスクリーニング法に関する研究』
- **佐久間伸一（医療福祉心理学分野）**
『Tasks for Positive Psychology from the Competence Psychological Point of View』
- **佐藤美香子（医療福祉経営学分野）**
『高齢者における肺炎球菌ワクチンの医療経済評価』
- **冨永琢也（理学療法学分野）**
『転倒を回避するために生じる前方ステップ動作能力に対するトレーニング法の考察』
- **西尾太祐（理学療法学分野）**
『回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の早期在宅復帰を促進するための課題と対策』
- **原毅（理学療法学分野）**
『周術期消化器がん患者における手術後身体運動機能の影響因子について』
- **樋口謙次（理学療法学分野）**
『保存期慢性腎臓病患者における運動療法の安全性と有効性について』
- **牧野和子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**
『利用者の自立支援を達成するために、ケアマネージャーが習得すべき要素の可視化に関する研究』
- **丸山裕司（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**
『超高齢離島における生活環境と要介護化との関係について ―地方都市との比較を通して―』
- **三浦建太郎（医療福祉学分野）**
『タブレット端末による訪問介護サービス実施記録システム構築の記録 ―高齢者の生活支援の現場からのICT活用のトライアル―』
- **山田洋一（理学療法学分野）**
『理学療法評価における視覚的分析能力の調査』
- **結城俊也（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**
『脳卒中者における自己（自己）存在感の変容プロセスについての研究 ―解釈的現象学的分析を用いて―』
- **渡辺純子（医療福祉心理学分野）**
『うつ病患者の時間的展望：時間的展望テスト（TPT）の適用』
- **阿武幸美（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**
『認知症の人に対するケア「寄り添うケア」に関する研究』
- **小町祐子（視機能療法学分野）**
『重度脳性麻痺患者における視機能評価方法の検討』
- **中川ひろみ（看護学分野）**
『待機的結腸直腸開腹手術患者における手術部位感染のリスク因子の検討 ―ストーマ造設と周術期栄養状態に焦点をあてて―』
- **福西朱美（医療福祉心理学分野）**
『非定型うつ病の医療福祉心理学的研究』
- **髙橋佐和子（看護学分野）**
『大学薬物乱用防止教育担当者および学生の教育的ニーズの把握 ―大学生の大麻等薬物乱用防止教育プログラム開発に向けて―』
- **足立耕平（リハビリテーション学分野）**
『てんかん患者への外科手術が術後の生活適用に与える影響』
- **中村富美子（看護学分野）**
『養護教諭のコンピテンシーモデルに基づくスキルラダーの開発』
- **姜珠賢（カン・ジュヒョン）（医療福祉経営学分野）**＝韓国
『医療機関評価認証制度（JCI）が病院経営成果に及ぼす影響に関する研究』
- **坂本千枝子（診療情報管理・分析学分野）**
『DPCデータの禁煙指数と併存症を用いたがん疾患の臨床評価』
- **徐輝（ジョ・キ）（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**＝中国
『中国上海市における高齢者介護意識に関する研究 ―一人っ子政策の影響を探る』
- **増原真砂子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**
『特別養護老人ホームにおける個別性に配慮した自立支援の検討』
- **矢野美和（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）**
『自立支援介護が与える影響 ―排泄の自立への取り組みと介護職員のモラールおよび離職率―』
- **四之宮佑馬（視機能療法学分野）**
『外斜視における交代遮蔽時と単眼時の衝動性眼球運動の潜時』

（論文タイトルは変更される場合があります）

式辞（抜粋）
北島政樹 学長

本日は、卒業生のみなさまはもとより、今日までご支援されてこられましたご両親、ご家族のみなさまにおかれましてもお慶びのこととお祝いを申し上げます。

昨日で東日本大震災から三年が経過いたしました。復興の槌音が聞かれる一方、いまだに多くの方々が将来への不安を抱えたまま、仮設住宅での生活を余儀なくされております。しかし、記憶に新しいソチ・オリンピックでは、日本の一〇代の若者三人がメダリストとなり、努力することの大切さ、諦めないで挑み続けることの尊さを伝えました。特に、仙台出身のフィギュアスケート・羽生結弦君の大活躍は被災地の方々にとって大きな心の支えになると確信しております。

本学は、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざすことを建学の精神として掲げ、一九九五年に医療福祉の総合大学として開学しました。昨今、就職氷河期と言われるなか、本学への求人数は卒業生ひとり当たり九八人という驚くべき数字になっております。これはみなさんの先輩が医療福祉の現場で高い評価を受けている証であります。みなさんはこれを誇りに思うと同時に、今後、それぞれの現場で大きな励みにしていただきたいと願っております。

本日、みなさんは学び舎の地、ここ大田原から巣立っていかれますが、一人ひとりが医療福祉専門職のリーダーをめざし、「共に生きる社会」をつくる先導者となるよう、教職員一同、常に見守り、大きな期待を寄せております。これから、学生生活よりもはるかに長い道のりを歩むことになりますが、夢と希望と勇気を持って、本学の卒業生であるという誇りとともに、実り多い、悔いのない人生を築かれることを祈念しております。

式辞（抜粋）
矢﨑義雄 総長

みなさんは、今日まで修得してきました専門的な知識と技術をいよいよ実際の社会に応用して、社会で困っている方々や患者さんを治療して、お世話をして、助けるという社会的使命の高い、極めてやりがいのある道を進まれることになりました。特にわが国では、人口の高齢化が急速に進展するなかで、みなさんに対する社会からの期待も極めて大きいと思います。医療・福祉・介護は、一方では、安心社会を支える基盤となる重要な役割を担っていますが、社会の状況、たとえば、経済全体の動きや診療報酬体制といったことによる変化によって、大きな影響を受けることがあります。それにより、みなさんは困難な厳しい環境に遭遇することがあるかもしれません。しかし、みなさんの進む道はゆるぎない道でございまして、初心を忘れずに自信を持ってまっすぐに進んでください。みんなで応援しております。

ここで特に申し上げたいことは、医療・福祉・介護の知識と技術は日進月歩で進歩しています。本日卒業するみなさんは、これで学習が終わったということではなく、生涯学習の道を選んだということを忘れることなく、毎日、患者さんへの対応に創意工夫を凝らし、また、新しい知識と技術を導入して、わが国の医療・福祉・介護の発展にご尽力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

大田原市長祝辞（抜粋）
津久井富雄様

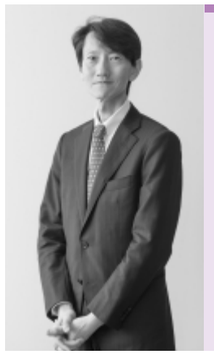
本市が福祉や介護の先進都市であると自負できるほどになったことは、貴大学の先生方や学生のみなさんのご支援があったためであることは言うまでもございません。

みなさんが市内各地で多くの市民のみなさんとの多様な触れ合いを通じて与えてくださった喜びは、みなさんがこの地を去ったあとも忘れません。交流センターでのお年寄りとの交流、子どもたちとの交流、絵本の点訳、障害児・障害者との交流、手話活動、献血の呼びかけ、大田原マラソン大会での選手のお世話、与一まつりへの参加、河川などの清掃奉仕、災害時の被災者支援のお手伝いなど、みなさんのボランティア活動にどれだけ助けられたことかわかりません。

この大田原の地で培った知識や教養、経験を糧に、誇りを持って活躍されることを願っております。今後は国際医療福祉大学の同窓生として、在校生と母校、そして、この大田原市に温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

大学院長賞 受賞者

出会いを大切に



博士課程　保健医療学専攻
先進的ケア・ネットワーク開発研究分野　結城俊也

私は二〇数年間、理学療法士としてリハビリテーション医療に携わってきました。しかし、いつの頃からか、狭量な己の「べき論」の中に患者様を閉じ込め、ひとり悦に入っていることに気がつきました。どうすれば患者様の主観的世界を理解できるのか、当時の私には見当もつきませんでした。

そんなとき、「現象学的アプローチ」というひとつの方法論に出会うことができました。意識に直接現れたものに、内在としての絶対性を認めようというこの考え方は、暗中模索の中で一筋の光明でした。さらに幸運だったのは、主流とは言いがたいこの研究方法に理解を示し、温かくご指導くださった竹内孝仁先生との出会いでした。恩師と現象学、このふたつの出会いがなければ、私の研究は成立しなかったはずです。出会いとは奇なもの。求めて得られるとは限らないが、不断の努力をしている者の上には自然と舞い降りてきます。そう信じて精進を怠らぬことが肝要といえるでしょう。

離島で疾病管理や健康増進に携わりたい

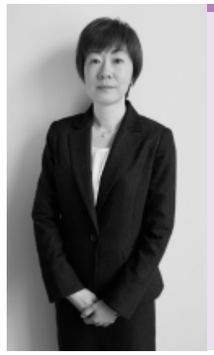
修士課程　保健医療学専攻
ナースプラクティショナー養成分野　難波めぐみ

ナースプラティクショナー（NP）は、主に米国で活躍する上級看護師で、専門分野に分かれ、一定レベルの診断や治療、処方などを行います。日本でも制度の導入と国家資格創設が検討されています。

私は、勤務していた沖縄県の病院で、一晩で医師ひとりが三〇〇人もの患者様を診る現状を目の当たりにしました。そこで、地域住民を対象にしたプライマリ領域における疾病管理やアセスメントができるNPをめざしました。一年次の学習は医学的知識や薬理学、解剖学、疾病管理学などの座学で、毎週のように筆記や口頭、実技の試験が行われます。入学した一二人が二年次進級時には五人に減り、臨床実習に入りました。ここで入院症例三三、外来症例三五二を経験しました。

私はNPとして、離島で地域医療や在宅医療の分野で疾病管理や健康増進に携わりたいと考えています。必要とされる能力は幅広く、これから始まる臨床研修では人一倍努力していこうと思います。

学びと感謝の二年間



修士課程　保健医療学専攻
視機能療法学分野
山田明子

私にとって、この二年間は日々の臨床では経験できない貴重な時間であり、改めて臨床に取り組む自分自身を見直すことのできた大切な経験となりました。

私は現在、視能訓練士として勤務しております。視能訓練士となり一〇年以上が経過し、漠然と日常業務に追われていた頃、大学院へ進学する機会を得ることができました。仕事との両立など不安もありましたが、視機能療法分野の先生方をはじめ、職場の多くの方々からご指導、ご支援を賜り、いくつもの困難な場面を乗り越えることができました。そして、たくさんの患者様にもご協力を賜りました。温かく協力してくださった患者様に深謝するとともに、視能訓練士として、患者様に少しでも貢献できるよう問題意識を持ち、積極的に臨床に取り組むことの大切さを再確認することができました。

今後は、研究をとおして学んだことを臨床現場で生かすことができるよう努めてまいりたいと思います。

大田原各学科選抜

看護師として働ける誇りを忘れずに

保健医療学部　看護学科
馬場美和

四年間の大学生活で一番印象に残っているのは、三年次の領域別実習です。自分が提供する看護ケアが患者さんにとって一番適切であるか、また、一番適切な方法でケアを提供できているかなど、自信を持てないことが何度もありました。しかし、友人や先生方と辛さや悩み、喜びを共有し合って約半年間の実習を乗り越えることができました。また、実習は専門職として患者さんにかける一言の重みを痛感する機会にもなりました。患者さんのやる気を引き出すことや自信を持つことのきっかけづくりができる看護師の仕事は、魅力の多い職業だと思います。

看護師として働けることを誇りに思い、社会人になってもこの気持ちを忘れずに患者さんと向き合っていきたいと思います。熱心に指導していただいた先生方、たくさん語り合った友人、そして家族の支えに本当に感謝しています。

実習をとおして成長する自分を実感

保健医療学部　理学療法学科
小野寺沙織

四年間の大学生活はとても充実したものであり、あっという間でした。入学当初は不安ばかりでしたが、さまざまな行事などをとおして、すぐに周りと打ち解けることができました。多くの講義や行事の中でも印象に残っているのは実習です。実習では自らの未熟さを痛感し、困難にぶつかることもありましたが、指導の先生をはじめ、友人、そして何より、患者さんからの「ありがとう」という言葉や笑顔に支えられ、多くを学び成長できました。実習をとおして、医療人としてさらに学習を重ね、地域に貢献していきたいと強く感じました。四年間、熱心にご指導くださった先生方、同じ目標を持ち、ともに成長し合った友人たちには本当に感謝しています。四月からは理学療法士として、専門職間での連携や地域との連携を大切にし、大学生活で学んだことを生かし、成長し続けたいと思います。

これまでの出会い、これからの出会い

保健医療学部　作業療法学科
山上夏紀

高校生の時、障害を持つ子どもたちやそのご家族との出会いをきっかけに、作業療法士になると決意しました。月日が経ち、今、作業療法士としてのスタートラインに立っており、期待と不安で不思議な感覚です。

四年間はあっという間で、作業療法の楽しさや責任の重さを感じながら一歩一歩前に進み、夢が具体的になっていく日々は刺激的で充実していました。一生の宝となる多くの出会いがありました。ともに笑い、涙しながらも切磋琢磨し合える仲間や熱心に指導してくださった先生方、大切なことをたくさん教えてくださった患者さん、優しく見守り続けてくれた家族などに感謝しています。

これからさまざまな困難にぶつかっても、今まで出会った方々や自分に恥じぬよう、また、これからの出会いに真摯に向き合っていけるよう努力していきたいと思います。

一生の宝を得た四年間の学び

保健医療学部　言語聴覚学科
誉田桃子

言語聴覚士を志し、地元を離れ勉強に励んだ四年間。楽な大学生活ではありませんでした。実技の習得や実習、国家試験に向けての勉強など、壁にぶつかり、思い悩み、涙したこともあります。それでも、言語聴覚士になりたいと思い続け、ここまで努力することができたのは、自分ひとりの力ではありません。同じ目標に向かって努力する友人、時に厳しく叱咤し常に味方でいてくれた先生方や両親、未熟な私の臨床にもいやな顔ひとつせず熱心に向き合ってくださった患者さん、これら多くの人の支えがあってこその今だと心から思います。

この四年間の出会いは一生の宝であり自慢です。念願の言語聴覚士としてスタートを切ります。思い悩むこともあると思いますが、これからも人との出会いを大切にし、患者さん一人ひとりと真摯に向き合い、常に成長し続ける言語聴覚士でありたいと思います。

視能訓練士の魅力を実感

保健医療学部　視機能療法学科
平山真奈美

入学前は長いと思っていた大学生活も、瞬く間に終わってしまいました。最も印象に残っていることは、三年次の終わりに参加した元培科技大学での国際学生学術会議です。海外の方々に子どもの視覚スクリーニングの重要性について発表し、「より多くの視能訓練士が視覚スクリーニングに参加することで、子どもたちの視機能の発達の手助けとなりたい」という自分の思いを伝えました。達成感を味わうとともに、一生忘れられない貴重な経験となりました。この活動を通して視能訓練士の魅力を再認識しました。

これまでたくさんの方々に支えられ、今、社会人のスタートラインに立つことができました。これから多くの困難や辛いことがあると思いますが、強い気持ちを持って乗り越えていきたいです。そして、少しでも早く一人前の視能訓練士となれるよう日々努力していきます。

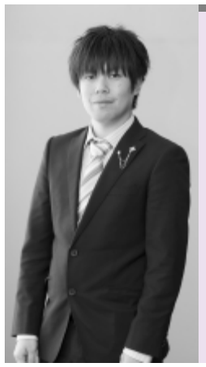
多くの人に支えられて

保健医療学部　放射線・情報科学科
渡邉詩織

大学生活は、さまざまなことを学び、感じ取ることができ、充実した日々を送ることができました。また、自分が多くの人に支えられていることを痛感した四年間でもありました。入学当初は、大学生というとなんとなく「自分ひとりの力で何でもできる」というイメージを抱いていたように思います。

被災地ボランティアの経験を生かして

医療福祉学部　医療福祉・マネジメント学科
介護福祉コース
佐藤謙介

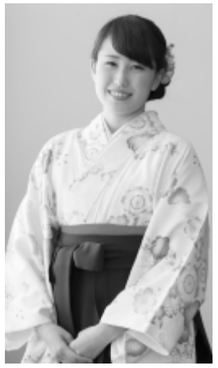


この大学でのさまざまな経験の中で、一番印象に残っているのは被災地ボランティアです。東日本大震災による被災地の復興のために、私たちのひとつ上の先輩方は大学祭で宮城県岩沼市の野菜を販売し、その収益を岩沼市に寄付するボランティアを行いました。そして翌年の大学祭で私たちがこれを引き継ぎ、今はさらに後輩が引き継いでいます。ボランティアをする中で、私は仲間の大切さはもちろん、命の尊さや被災者の想いについて知ることができました。

私は卒業後、介護福祉士として大学関連の高齢者施設で働きます。新人の私がまず初めにできるのは、笑顔や思いやりを忘れずに、利用者の方々に元気を提供することだと考えています。そして、経験を積む中で、大学で学んできたことを生かし、常に相手の立場になって考えることができる職員になりたいと思います。

恩返しができるように

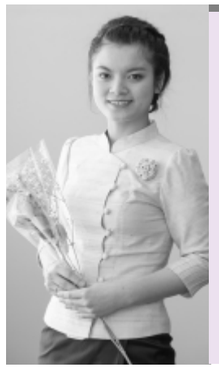
医療福祉学部　医療福祉・マネジメント学科
診療情報管理コース
塩野谷結実



私が初めて「診療情報管理士」の資格を知ったのは、進路に悩んでいた高校二年生の時でした。当時は、漠然と「医療や福祉に関する仕事がしたい」としか考えていませんでしたが、この資格と国際医療福祉大学に出会い、直接医療を提供する立場でなくても、自分の得意なことで医療に貢献できると気づきました。四週間の病院実習や関連職種連携実習などを経験し、目標の「診療情報管理士」を取得することができました。今日の日を笑顔で迎えることができたのも、たくさんの方々の支えがあったからだと思います。

大学院でさらに学びを深めたい

医療福祉学部　医療福祉・マネジメント学科
医療福祉マネジメントコース
Keomany Paloma



約五年前に、医療機関における質の管理と保険の仕組みについて学びたいと思い、来日しました。東京都から栃木県に引っ越し、初めて訪れたのに、どこか懐かしい雰囲気を感じました。なぜなら、東京と違って、時間がゆっくりと流れ、緑が豊かで、空気がとてもきれいなところが、母国・ラオスに似ていたからだと思います。入学してから、あっという間に四年が経ちましたが、この間、先生方や友人など多くの人に支えられ、充実した学生生活を送ることができました。

一年生の時に東日本大震災が発生しました。被災地の復興と被災者の心のケアのために、各学科が一体となって行ったボランティアに参加し、改めて「チーム医療」の重要性を知りました。卒業後は本学大学院に進学します。これからも本学の理念である「共に生きる社会」を常に心がけ、努力し続けたいと思います。

絆

薬学部　薬学科　篠加奈子

国家試験後の帰宅途中、緊張の糸が切れて涙が出てきました。試験また試験の連続の中、支えてくれた家族、勉強や遊びで苦楽をともにした友人、指導してくださった先生方など、応援してくださったすべての方に心から感謝しています。

この六年間で多くの経験をし、多くの絆が生まれました。卒業研究では、仲間と苦労をともにした研究成果を『栃木県学生&企業研究発表会』で発表し、金賞をいただきました。本学だからこそ経験できた関連職種連携教育では、夜遅くまでチームで議論を重ね、充実した治療方策を打ち立てることができ、感動しました。卒業後は、これらの経験から得た研究マインドを忘れず、患者さんを中心にすべての職種が連携していくことで、患者さんはもちろん、医療スタッフからも頼りにされ、絆を築ける薬のエキスパートに成長していきたいと思います。

特集2

平成二六年度 学部入学式並びに大学院入学式

詳しくはホームページへアクセス HP

四月二日、大田原キャンパスにおいて「平成二六年度 学部入学式並びに大学院入学式」が行われた。

校歌『未来(あす)への扉』の斉唱に続き、北島政樹学長、天野隆弘上席副大学院長が式辞を述べた。続いて、来賓を代表して、大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・保健福祉部次長・和田裕二様から祝辞をいただいた。

これを受けて、学部新入生を代表して高野玲奈さん(言語聴覚学科)が、大学院新入生を代表して石坂勇人さん(医療福祉学研究科 博士課程)が「新入生誓いのことば」を述べた。

●誓いの言葉を述べる高野玲奈さん

●誓いの言葉を述べる石坂勇人さん

最後に、北島学長から壇上の教員が一人ひとり紹介されて式は滞りなく終了。その後はそれぞれ、「来賓懇親会並びに大学院祝賀会」、「学科別懇談会」、「大学院オリエンテーション」に臨んだ。

平成二六年度 学部新入生・大学院新入生概要

■学部 合計 1521名

保健医療学部 合計 601名

- 看護学科 125名
- 理学療法学科 100名
- 作業療法学科 98名
- 言語聴覚学科 97名
- 視機能療法学科 53名
- 放射線・情報科学科 128名
- **医療福祉学部 合計 183名**
- 医療福祉・マネジメント学科 183名
- **薬学部 合計 197名**
- 薬学科 197名
- **小田原保健医療学部 合計 160名**
- 看護学科 59名
- 理学療法学科 54名
- 作業療法学科 47名
- **福岡看護学部 合計 103名**
- 看護学科 103名
- **福岡保健医療学部 合計 277名**
- 理学療法学科 94名
- 作業療法学科 48名
- 言語聴覚学科 48名
- 医学検査学科 87名

■大学院 合計 285名

- □**修士課程 合計 212名**
- 医療福祉学研究科 210名
- 保健医療学専攻 130名
- 医療福祉経営専攻 57名
- 臨床心理学専攻 23名
- 薬科学研究科 2名
- 生命薬科学専攻 2名
- □**博士課程 合計 73名**
- 医療福祉学研究科 71名
- 保健医療学専攻 2名
- 薬学研究科 2名
- 医療・生命薬学専攻 2名

特集2 祝辞

大田原市長祝辞(抜粋) 津久井富雄様

本日ここに、国際医療福祉大学の入学生とそのご家族をお迎えできましたことを、大田原市民を代表いたしまして心から歓迎を申し上げます。

大田原市は、「住む人が輝き 来る人がやすらぐ 幸せ度の高いまち」の実現をめざしております。みなさんの先輩方は、ボランティア活動を含めて、地域のさまざまな行事に積極的に参加され、地域住民のみなさんとの絆や触れ合いを深めており、本市の活性化と福祉のまちづくりに多大な貢献をいただいています。みなさんも先輩方と同様に、本市の将来像の実現にご協力を賜りますようお願い申し上げます。同時に、こうした活動をとおしての出会いが、新たな自分を発見し、意欲や目標を高め、人生を開花させていくことにつながるはずでありますので、みなさんも一日も早く地域社会に溶け込んでいただければ幸いに存じます。

この大田原の地で青春時代の意義ある日々を送られたことを、みなさんがいつの日か、誇りを持って思い出すことができるよう、私たちもみなさんとともに努力してまいりたいと思います。

本日の瞳の輝きを持ち続け、情熱と謙虚さを忘れず、互いに他を慈しみ合い、明日に夢をつなぐことができるような大学生活を送られますことをご期待申し上げます。

式辞(抜粋) 北島政樹 学長

ご入学おめでとうございます。

本学は、医療福祉専門職の地位向上をめざし、日本で初めて医療福祉の総合大学として、一九九五年にここ大田原市に開学いたしました。

わが国は、世界のどの国も経験したことのない急速なスピードで高齢化が進み、二〇三〇年には、特に首都圏で、医療介護需要が爆発的に増加することが予測されています。こうした時代背景のもと、医療福祉の次世代のエキスパートをめざすみなさんには、社会から大きな期待が寄せられています。

先のソチ・パラリンピックにおいては、狩野亮選手がアルペンスキー男子座位で滑降とスーパー大回転の二冠に輝くなど、日本選手は六個のメダルを獲得し、われわれは、困難を克服し目標に向かって努力することの大切さを学びました。また、四年前のバンクーバー・パラリンピックの際、オリンピックとパラリンピックを一切の区別なく開催したのは、「障害を持つ人も健常な人も、スポーツマンとしての精神は同じであり、これに真摯に参加する人はすべて平等である」という精神によるものでありました。これは本学の建学の精神である「共に生きる社会」に通じるものであります。

新入生のみなさんは、これまで生きてきた何倍もの時間を医療福祉の専門職として生きていくわけです。自分で考え、自分で責任を持って行動できる「独立して生きる力」と、他人の心の痛みを感じて、利害得失を越えて新しい協力関係を作り出す「協力して生きる力」の両方を備えた人間になることこそが、医療福祉の先導者になる道です。

母校とは、ここで学んでよかったと心から思える学び舎であり、楽しみがあふれ、輝きに満ちた場所でなければなりません。サークル活動やボランティア活動にも積極的に参加し、多くの友人をつくると同時に、学業以外に真に打ち込めるものを模索することが大切です。入学前から持ち続けてこられた夢と勇気と希望を持って、芭蕉が数多くの句を詠んだ文化と情緒と景観の地、ここ大田原で、学生生活の新しい一歩を踏み出していただきたいと思います。

式辞(抜粋) 天野隆弘 上席副大学院長

ご入学おめでとうございます。

みなさんは、これまでの勉強と、これからの大学や大学院での勉強との違いを考えたことがあるでしょうか。これを教育・学習の面から考えると、「ペダゴジー」と「アンドラゴジー」のふたつにわかれます。

「ペダゴジー」は、みなさんが家庭で両親から、学校で先生から、薫陶を受けて教えられてきた教育のことを指します。これに対して「アンドラゴジー」は、これからみなさんが行うべき学習であります。すなわち、自分で考え、自分で判断し、自分で行動する学習であります。もちろん、このふたつが、ある時期を境にきれいにわかれるものではありませんが、大学、大学院、社会へと進むにつれて、より「アンドラゴジー」が求められるようになります。

それでは、どのように学習していけばよいかを考える場合、教育学者・ブルームが定めた三つの教育目標があります。

第一は、コグニティブ・ドメイン(認知領域)の学習であります。すなわち、知識を蓄え、必要な時にこれを思い出し、問題を解決するということであり、ゲーテも「大切なことは、誰よりも知識があることではなく、その瞬間に、誰よりも何をなすべきかの知見があることである」と述べています。

第二は、サイコモーター・ドメイン(精神運動領域)の学習であります。これは医療福祉職にとって重要な領域です。手技によって必要なことができるということであり、演習や体験などによって身につけていくものです。

第三は、アフェクティブ・ドメイン(情意領域)の学習です。従来の教育では欠けていたといわれるもので、これは態度と価値観です。患者様やそのご家族に接するときに、どんな態度で、どんなコミュニケーションがとれるか。その背景には倫理観やヒューマニズムが備わっていなければなりません。

この三つの教育目標とゲーテの言葉を思い出しながら、社会の中で医療福祉職として働いていく価値観を見い出すべく、有意義な学園生活を送っていただきたいと思います。

その他のキャンパス・グループ施設

■入学式

- 四月二日 大学院東京青山キャンパス
- 四月四日 小田原キャンパス
- 四月五日 福岡キャンパス
- 四月五日 大川キャンパス
- 四月三日 福岡国際医療福祉学院
- 四月四日 柳川リハビリテーション学院
- 四月七日 大川看護福祉専門学校
- 四月七日 塩谷看護専門学校

■グループ入社式・辞令交付式

- 四月一日 栃木地区
- 四月二日 東京・千葉・小田原・熱海地区
- 四月四日 大川・福岡地区

大川キャンパス・福岡キャンパス 平成二五年度 合同学位記授与式

平成二六年三月一〇日、初となる福岡保健医療学部・福岡看護学部・九州地区大学院の合同学位記授与式が、福岡市百道浜にある福岡国際医療福祉学院体育館で執り行われた。澄み渡る青空のもと、続々と会場に集まった卒業生・修了生はみな晴れやかな笑顔。

大川市教育長の石橋良知様、福岡市健康医療部長の下川祥二様をはじめとする来賓、保護者、教職員が見守るなか、福岡保健医療学部一五〇名(理学療法学科七六名、作業療法学科三七名、言語聴覚学科三七名)、福岡看護学部九七名の総代として田口智子さん(言語聴覚学科)に北島政樹学長より、また、九州地区の大学院二一名(博士課程一名、修士課程二〇名)を代表して、大学院博士課程総代の矢野美和さんと修士課程総代の清水聡史さんに杉原素子副大学院長より、学位記が授与された。

堤まどかさん(理学療法学科)、坂井和美さん(作業療法学科)、田口智子さん(言語聴覚学科)、吉村小夜子さん(看護学科)に『学長賞』、米田一也さん(理学療法学科)、木村美鈴さん(言語聴覚学科)に全国リハビリテーション学校協会『優秀賞』、大仁田彩乃さん(看護学科)に日本私立看護系大学協会『会長賞』が授与された。

北島学長の「夢と希望、勇気を持って、常に医療福祉におけるオピニオンリーダーとして、実り多く悔いのない人生を歩むことを祈念します」との式辞に続き、卒業生代表の吉村小夜子さん、大学院修了生代表の青木耕さんが謝辞を述べた。さらに、堤まどかさんから卒業記念品が贈呈され、学位記授与式は終了した。

●学部卒業生代表の田口智子さん

●会場前で記念撮影

●青空に恵まれた初の合同学位記授与式

午後からは、各会場で学科別学位記伝達式と大学院学位記伝達式、大学院の修了祝賀会が開催された。また、夕刻からは福岡市内のホテルで二学部合同謝恩会が行われ、最後は卒業生全員がステージにあがって、教職員へ感謝の気持ちを込めた歌をプレゼント。四年間をともに過ごした仲間や恩師との思い出を胸に刻み、新たな活躍の場へと巣立っていった。

(九州地区広報室　帆足リエ)

福岡看護学部学位記伝達式

合同学位記授与式に続き、福岡国際医療福祉学院体育館で福岡看護学部学位記伝達式が行われた。斉藤ひさ子学部長から一人ひとりに学位記が授与されると、緊張の中にも笑顔や、感激で涙を浮かべる姿もみられた。

引き続き、斉藤学部長から「これからは、四年間で身につけた豊かな素養を基盤として、人とのつながりを大事にし、互いに支え合い、ともに歩むことのできるような豊かな人間関係を築いてほしい。また生涯にわたって自己研鑽を重ねる覚悟を持ち、さまざまな分野での活動にチャレンジしてください」と、はなむけの言葉が贈られ、学部の教員一人ひとりからもお祝いの言葉が贈られた。今回卒業した二期生も、一期生に続いて全国で活躍することを祈念してやまない。

(福岡看護学部　助教　上田智之)

●看護学科学位記伝達式を終えて

福岡保健医療学部 学位記伝達式

福岡保健医療学部の学位記伝達式は、授与式と同じ福岡国際医療福祉学院の各教室を会場に、学科別に執り行われた。学科長から一人ひとりに学位記が手渡され、マイクを前に卒業生が挨拶。充実した四年間を振り返り、支えてくれた先生方や両親、そしてともに歩んだ学友に向けて感謝の言葉を述べた。なかには、あふれる思いに言葉を詰まらせる卒業生も。その姿を温かく見守る先生方も感慨ひとしおの様子だった。

●言語聴覚学科学位記伝達式

●作業療法学科学位記伝達式

●理学療法学科学位記伝達式

(九州地区広報室　帆足リエ)

第20回 キャンパスレポート 福岡

春のオープンキャンパスを開催

三月一六日、福岡看護学部では、百道浜地区へのキャンパス移転後、初めての「春のオープンキャンパス」を開催した。看護職という仕事を広く知ってもらい、体感してもらうことを目的に開いた今回のオープンキャンパスには、受験生となる新高校三年生に加えて、新一・二年生や保護者など多くの方々にご参加いただいた。

まず、全体会として本学の歴史や教育理念、本学部の特長、入試概要などについて説明し、本学への関心を深めていただいた。その後、体験コーナーでは『聴診器を使ってみよう』というテーマで、心臓の音や呼吸の音などの聴診や血圧測定など、看護職の一端を体験した。参加者はみな、初めての経験に戸惑いながらも本学部の学生からやり方を習い、交流を深めた。また、「看護職の仕事とは」、「看護師になるには」といった講義では、看護師になるための道のりについての話に真剣に耳を傾けていた。

学生交流コーナーでは、講義内容や実習での経験、受験勉強の話などを実際に学生に聞くことができ、有意義な時間となったようだ。

参加した高校生からは「大学の仕組みやどんな勉強をするのかがわかりました」、「看護の仕事を体験できて、看護師になりたいという気持ちが強くなりました」、「国際医療福祉大学に入りたいです」といった声が聞かれた。

今回のオープンキャンパスは、参加した高校生にとって看護職や医療専門職へ近づく貴重な機会となった。本学部で一緒に学べる日が一層楽しみである。

(福岡看護学部　助教　上田智之)

●オープンキャンパススタート前の最終チェック

●聴診器で体の音を聴いてみよう

第34回 キャンパスレポート 大川

地域の方々と交流

二月八日、大川市民大学講座で講演を行う機会をいただいた。これは急激に変化する社会情勢に対応するための知識を得ることや、充実した人生をめざした学習の機会として、大川市中央公民館が成人層を対象に毎年一月下旬から二月にかけて開催している講座である。今回は「ヒトは血管から老いる」という演題で、血管機能の破綻が生活習慣に起因する疾病に関わることと、大川市の健診の現状を加えた内容で講演を行った。ありがたいことに聴講者は一〇〇名を超え、講演後も多くの質問があり、自身の健康に興味を持っている方は多く、保健医療従事者が情報発信を続けることが重要であることを再認識することができた。

大川市と近隣市町の保健医療について地域調査研究を行っているが、生活習慣病を予防するために二〇〇八年から始まった特定健診の受診率(国保加入者)を検討したところ、近隣市町と比較して、大川市民の受診率が低いことが明らかとなった。今回の講演を機会に、地域住民の保健医療の向上と学生への教育の一環として、自己測定法により、血糖値、脂質(コレステロールなど)、および血圧の測定を有志の医学検査学科学生とともに、商業施設内で行った。講座に参加された方、買い物中の方や商業施設スタッフの方など、高齢者を中心に幅広い方々に体験していただいた。

医学検査学科は、二〇一三年に開設されたため、今回参加した学生は初めて一般の方に検査結果を説明した。参加学生からは、地域住民の方と接する機会となり、貴重な経験となったという感想を聞くことができた。

ますますの少子高齢社会を迎え、労働人口が減少する日本では、病気が表に出ないうちに抑える先制医療が課題となる。イギリスでは、塩分摂取量を一割減少させることにより、三年間で医療費が二一〇〇億円削減されたという報告がある。

一方、日本では特定健診が行われているが、受診率の低さと成果に疑問が持たれている。日本は食生活や生活文化の違いから、有病率の地域性が存在する。住民の健康状態を理解し、地域独自の予防医療活動を展開することは、大きな効果を生むことが期待される。今後も、情報発信と、学生とともに地域に根ざした活動を継続したいと考えている。

(医学検査学科　助教　小山晃英)

●一般の方に検査結果を説明する初めての機会になった

第30回
小田原キャンパスレポート

学位記授与式

三月一四日、小田原キャンパスでは、小田原保健医療学部と大学院の学位記授与式が挙行された。当日は晴天にも恵まれ、井上義行参議院議員、加部裕彦小田原市副市長、小森哲夫国立病院機構箱根病院長をはじめ、数多くのご来賓、保護者、教職員に見守られ、学部生一五七名(看護学科五三名、理学療法学科六〇名、作業療法学科四四名)と、小田原・熱海キャンパスに所属する大学院生一五名(博士課程四名、修士課程一一名)に学位記が授与された。

北島政樹学長、杉原素子副大学院長より学位記を受け取った総代は、島田真衣さん(理学療法学科)、菊池昭江さん(博士課程)、右田正澄さん(修士課程)。続いて、学長賞が田中優大さん(看護学科)、島田真衣さん、鈴木美咲さん(作業療法学科)に授与された。北島学長より式辞として「一人ひとりが専門職のリーダーをめざし、『共に生きる社会』をつくる先導者になることを教職員一同常に見守り、大きな期待を寄せています」と卒業生へのお祝いが述べられた。そして、学部生を代表して鈴木美咲さん、大学院生を代表して大畑実加さん(修士課程)より謝辞が述べられ、田中優大さんより卒業記念品の贈呈が行われた。

午後は、学科長(大学院は副大学院長)より一人ひとりに学位記が手渡される学位記伝達式を行った。教職員一同、卒業生の今後の活躍を祈念している。

(総務課　高久晃)

●学長賞受賞者、左から田中さん、島田さん、鈴木さん

平成二五年度謝恩会を開催

学位記授与式・学位記伝達式の終了後、会場をヒルトン小田原リゾート&スパ地下一階にあるヒルトン・アリーナへ移動し、謝恩会が開催された。

卒業生一五七名に加え、教員四五名の計二〇二名が出席し、過去三回と比較しても、最大の出席者数となった。

冒頭、北島政樹学長から、「皆さんには、医療現場における先導者として活躍してほしい」とご挨拶をいただき、卒業生の表情には、卒業を迎えた喜びの中に、これから医療人として現場で活躍することへの責任感がうかがえた。

荒木田美香子看護学科長の乾杯を合図に謝恩会はスタート。大学生活でお世話になった教員・同窓生との最後の別れを惜しむように、各テーブルで話に花が咲いた。

●荒木田美香子看護学科長へ花束を贈呈

●北島学長と記念の一枚

実行委員長の森実愉さん(作業療法学科卒業生)を筆頭に、九月から謝恩会実行委員は始動。国家試験、就職試験など忙しい中、時間の合間を縫って準備にあたってきた。

謝恩会の閉会時には卒業記念品として、大学ロゴが入ったUSBメモリーが出席者へ配られた。

また、卒業生からの寄贈品として、小田原キャンパス敷地内にソメイヨシノを植樹。桜も卒業生もまだ小さな苗木だが、今回植えたソメイヨシノが花を咲かせるように、卒業生一五七名がそれぞれ進む道で大輪の花を咲かせ、実を結ぶことを期待する。

●記念樹の下には看板も設置された

●記念樹を中心に記念撮影をする謝恩会実行委員会

(学務課　下田岳史)

第4回
大学院キャンパスレポート

学位記伝達式

大田原キャンパスでは特集で紹介したように学部とともに盛大に行われたが、東京青山キャンパスでは三月一五日に行われ、六〇名を超す院生が出席した。

学位記授与に先立ち、三人の専攻主任があいさつし、藤田郁代教授から「ライセンスを持っただけでは世の中は動かない。臨床の場でどんどん発信して、現場から変えていただきたい」と力強いエールが贈られた。また、竹内孝仁教授からは、労いとともに「是非名刺に印刷して、世の中に誇示するのもよいのではないだろうか」、亀口憲治教授からは「皆さん方は専門家としての質的保証を得られたと考えてよい。これからは勇気を持って、前にいるユーザーに自分が身につけたことを発揮してほしい」との言葉があった。

●東京青山キャンパスでの懇親会

●東京青山キャンパスでの学位記伝達式

式の最後には、杉原素子副大学院長が、「自分の研究の限界をしっかりと固め、今後の課題を明確に伝えられる考え方をしていってほしい」とはなむけの言葉が贈られた。

終了後は立食パーティに移り、院生同士で写真を撮り合うなど、懇親のひとときを過ごした。

また、福岡キャンパスでは三月一〇日、小田原キャンパスでは三月一四日に、それぞれ厳粛に行われた。

(福祉支援工学分野　准教授　東畠弘子)

●博士課程総代(小田原キャンパス)の菊池昭江さん(看護学分野)

●博士課程総代(福岡キャンパス)の矢野美和さん(先進的ケア・ネットワーク開発研究分野)

第12回
塩谷看護専門学校キャンパスレポート

卒業式

三月四日、第六回生三七名の卒業式が挙行された。第六回生が入学した年は東日本大震災があり、震災の影響を受けて入学した学生もいた。また、二月一六日に実施された看護師国家試験では、記録的な大雪の影響を受け、前泊してホテルに向かうまでにもさまざまな波乱があった。しかし、全員無事に国家試験を受験することができ、安堵したことを今でも思い出す。そういう意味では、思い出に残る六回生である。

第六回生は、入学当初から「覇気がない、自己主張がない」などと外部の講師からも言われることがあった。実習でも自分の考えを伝えることが苦手な学生が多く、「何を考えているのかわからない、深く考えていないのか」などの声が聞かれることもあった。三年間で成長はしているが、その実感がなかなかつかめないこともあった。しかし、二月二八日の午前中に行われた看護観発表会では、実習を通しての自己の看護観を一人ひとり在校生の前で発表した。患者様・指導者・教員など関わった方々からさまざまなことを学び、悩みながら、学生一人ひとりが看護を考え、本当に成長していることを実感した。また、在校生代表の学生から感想を述べてもらうと、特に二年生からは、「共感できることや、今、自分が悩んでいることの解決の糸口がその発表の中にある」、「一年後の自分たちは、先輩たちのように立派に看護観を発表できるのか」などの感想があり、在校生に対しても看護を学ぶ先輩として、よい姿を見せてくれたように感じる。

その日の午後は、自治会が中心となり三年生を送る会が催された。会の最後に学生・教職員全員でゆずの『栄光の架橋』を合唱し、卒業生との楽しいひとときを過ごすことができた。

三七名は看護師として旅立っていく。看護の道は平坦ではないが、考え、悩みながら、決して諦めず、これからも看護を追究していってもらいたい。そして、看護師として成長していく姿をこれからも見守っていきたい。

(教務部　砂川かおる)

本年四月より、新たに三名の副学長、一名の学部長、二名の学科長が着任いたしました。

副学長
糸山 泰人（いとやま やすと）
ご入職

九州大学卒、医学博士。前国立精神・神経医療研究センター病院病院長。前東北大学医学部神経内科学講座教授、元東北大学病院副病院長、元九州大学医学部助教授。

神経内科医として九州大学と東北大学で神経学の教育・臨床・研究を行い、神経難病の医療と病因解明や治療薬の開発研究に力を注ぎました。前任地の国立精神・神経医療研究センター病院では、研究所で得られた新しい医療技術や薬剤をベッドサイドに届けることに努力してきました。

医療・保健・福祉の進歩はめざましく、これらを患者様にいかに優しく統合的にお届けするかが大切です。本学は日本初の医療福祉の総合大学で、建学の精神として「共に生きる社会」の実現を掲げています。「チーム医療・チームケア」のあり方を考え、その充実と発展に努力していきたいと考えています。

副学長（九州地区担当）
久保 千春（くぼ ちはる）
ご入職

九州大学医学部心療内科教授、九州大学病院長などを経て現職。日本心身医学会理事長など。専門は心身医学、アレルギー学。

福岡保健医療学部は開設一〇年目の節目の年を迎えました。昨年度、現在の学部名に改め、医学検査学科を新設したほか、福岡看護学部を百道浜に移転し、本学独自の関連職種連携を体験できる教育環境がさらに充実しました。先の大川リバーサイドホテルの開設に加え、今年度は、高木病院の急性期棟の竣工が予定されており、実習環境の向上や国際交流の活性化が期待されております。

大学院や九州地区生涯教育センターとも連携し、新たな伝統をつくり、さらなる飛躍をめざしたいと思います。「共に生きる社会」の実現に不可欠な人間味溢れる優れた医療福祉専門職の養成と学術の発展に寄与すべく、努力してまいります。

副学長
上席副大学院長
医学部設置準備委員会委員長
天野 隆弘（あまの たかひろ）

慶應義塾大学卒、医学博士。元慶應義塾大学医学教育統括センター長、元同大学教授、山王メディカルセンター名誉院長。

国際医療福祉大学塩谷病院継承時期の六か月の副院長就任を経て、東京の山王メディカルセンター院長として四年六か月間勤務してまいりました。この度、国際医療福祉大学の副学長・上席副大学院長・医学部設置準備委員会委員長に着任いたしました。

医療福祉の総合大学である本学での学事に、以前務めていた慶應義塾大学医学教育統括センター長や医学教育学会理事（現名誉会員）としての教育関係の経験を生かし、お役にたてればと思います。

国際医療福祉大学および大学院が、今後ますます大きく羽ばたき発展するよう、全力投球で尽力したいと考えています。

皆様方のご支援のほど、お願いいたします。

副学長
医療福祉学部長
桃井 眞里子（ももい まりこ）

東京大学卒、医学博士。前自治医科大学医学部長、同大学附属病院 副病院長。前自治医科大学小児科学主任教授。日本学術会議会員。

本年度から医療福祉学部の学部長に就任いたしました。

本学は多くの医療・保健・福祉職を育成している大学ですが、福祉職は、医療の効果を患者さんにとって最大限とするために不可欠なプロフェッショナルであり、急性期医療のあとにさまざまなケアや支援を必要とする患者さんやご家族の力強い味方です。マネジメント職は、医療提供体制を適切に運用するために不可欠な知識と技能を持ち、医療の効率を上げ、医療の発展に貢献する重要な職業です。優れた志のある若者がこれらの魅力あるプロフェッショナルをめざし、充実したプロ人生を築くことを願っています。

保健医療学部
作業療法学科長
谷口 敬道（たにぐち たかみち）

国立療養所東京病院附属リハ学院作業療法学科卒。東京理科大学卒。日本大学大学院理工学研究科修了。工学博士。

平成五年の春、本学の設立準備室に入職しました。当時、作業療法士の養成課程は三年制であり、大学教育は夢でした。私にできることは、日本初の医療福祉の総合大学を開学した高木邦格理事長や諸先生方の想いを皆さんにリレーしていくことです。

福岡保健医療学部
理学療法学科長
森田 正治（もりた まさはる）

国立療養所福岡東病院附属リハ学院理学療法学科卒。理学療法教育、発達障害および高齢者の理学療法が専門。日本理学療法士協会代議員。医学博士。

柳川リハビリテーション学院、福岡国際医療福祉学院の開設から携わり、二五年目を迎えました。一年半の大田原キャンパス勤務を経て、大川キャンパスで勤務することになりました。これまでの教育経験を生かし、国際性豊かな保健医療のエキスパートの養成に携わっていきます。

附属病院 国際医療福祉大学塩谷病院
塩谷広域行政組合消防本部と合同研修会を開催

二月四日、塩谷広域行政組合消防本部と当院の間で、救急搬送と受け入れに関する合同研修会が開催された。

まず、当院の一瀬雅典副院長より救急隊の方々へ、当院の救急受入体制の変化と今後の課題、症状別の搬送時の注意点等の説明が行われた。

その後、救急隊の方々より現場到着後から救急搬送するまでの流れについて、実技を含めてご紹介いただいた。質疑応答も数多くみられ、職員の救急隊への関心の強さが表れていた。

研修会終了後には、懇親会が開かれた。救急隊と病院職員が交流を持つ機会は限られているため、双方にとって有益な情報交換の場となった。今後も定期的に開催し、お互いの理解を深めていきたい。

（総務課　野地智実）

●救急隊による救急搬送の実技

附属病院 国際医療福祉大学病院
診療棟の増築工事が完了

当院のA棟増築工事が完了し、一階に放射線治療室が拡張されるとともに、PET・CT室が新設された。二階には既存の手術室を拡張する形で手術室二室が増設され、手術室は全九室となった。

増築した建物は鉄筋コンクリート造りの二階建てで、既存のA棟と連絡通路でつながる。一階の放射線治療室には、最新型の放射線治療機「リニアック」、隣にはPET・CTが新規に導入された。これにより、栃木県県北地域では唯一、PET・CT検査が可能な施設となる。

今回の機器導入により、従来以上に迅速かつ精度の高い放射線診断および治療を患者様にご提供できることになる。また、臨床だけでなく実習施設としても、さらに充実した環境が整備される。

特にPET・CTについては、ワーキンググループで運用ルールを策定し、運用・読影体制を整備しつつ、受診者獲得のために企業訪問やリーフレット配布等広報活動を展開している。

（総務部　木村裕幸）

●栃木県県北地域で初めて導入されるPET-CT

附属病院 国際医療福祉大学三田病院
GUAM諸国一行が三田病院を視察

二月一九日、GUAM諸国（グルジア、ウクライナ、アゼルバイジャン、モルドバ）の一行が当院を訪問した。外務省主催の「GUAM 日本・医療ワークショップ」の一環で、最新の設備や優れた医療スタッフ、充実した医療提供システムなどの視察が目的である。GUAM諸国は現在、医療の近代化に取り組んでおり、これまでの日本政府の支援が高く評価され、今後も大きな期待が寄せられている。

当日は、小川聡病院長のご挨拶の後、院内を視察。病理診断センターでは、長村義之センター長の案内で、①病理診断システム、②標本作成過程の自動化、③分子病理（遺伝子）診断室、④テレパソロジー室、など、わが国でも最も進んだセンターを熱心に見学された。近い将来、標本作成過程や遠隔病理診断（テレパソロジー）における、本学からの支援に強い希望が出された。

（総務企画課）

●病理診断センターにて、長村センター長を囲んで

附属病院 国際医療福祉大学熱海病院
感染対策地域連携カンファレンス開催

診療報酬上で感染防止対策管理加算1を算定している当院では年四回、近隣の医療機関で感染防止対策管理加算2を算定する四病院と、感染対策の合同カンファレンスを実施している。

カンファレンスでは、各医療機関による検出菌状況の報告や感染対策の取り組み、感染に関する情報やトピックを挙げ、情報の共有と連携を図っている。

合同カンファレンスの取り組みとして、毎回カンファレンス前に近隣地域の感染防止を目的とした、熱海・湯河原地区感染防止対策講演会を実施している。カンファレンスに参加した施設の担当者による講演やパネルディスカッション、外部講師を招いての講演などが主な内容だ。第五回を迎えた今回の講演会では、グループの化学療法研究所附属病院の増山英則教授をお招きして、「現代における肺結核診療の実践」というテーマでご講演いただいた。

（地域医療連携室　飯島秀行）

●講演に熱心に聞き入る参加者たち

第一回 日本ウズベキスタンフォーラムの開催報告

三月三日、ホテルオークラで、「第一回ウズベキスタンフォーラム」が開催され、ウズベキスタンからは、ガニエフ・エリョール・マジドヴィチ（対外経済関係投資貿易相）代表団団長ほか、約一〇名が来日された。実行委員長はファルフ・イスロムジョノヴィチ・トゥルスノフ駐日全権大使および松本財団代表理事・松本謙一氏で、日本側からは多くの企業の参加があった。

第一部では、ウズベキスタンからの出席者約一〇人のご挨拶とお話があり、前半は観光・芸術の部として、「ウズベキスタンとの出会い、そして…」をテーマにディスカッションが行われた。後半は医療に関する話題が取り上げられ、国際医療福祉大学三田病院・病理診断センター長の長村義之教授をはじめ、千葉百子氏（順天堂大学医学部客員教授）、キャロライン・ベントン氏（筑波大学副学長）、市橋克哉氏（名古屋大学副総長）、落合慈之氏（ＮＴＴ東日本関東病院院長）、青木眞氏（感染症コンサルタント）、長谷川フジ子氏（㈱スズケン営業企画部／本学大学院薬学研究科）など、さまざまな分野から講演が行われた。

●左から長村教授、ファルフ・イスロムジョノヴィチ・トゥルスノフ大使、北島学長

長村教授は、「医療の国際化におけるテレパソロジー」についての講演を行い、遠隔医療についての概略や、過日、ベトナム・チョーライ病院で施行した遠隔病理診断（テレパソロジー）の記録を動画で供覧した。ウズベキスタンからの参加者たちは、最前列で熱心に聴講し興味を示されていた。続いて、ウズベキスタンを中心にグルジア、アゼルバイジャン、カザフスタン等と共同して発展させた「テレパソロジー」システム「Virtual Silk Highway」について紹介した。古くは、らくだで移動していたシルクロードも、現在は衛星などを使って非常に短時間で交流ができるため、現地でも、遠隔地との病理診断を行っている。

現在、ウズベキスタンと日本では「ニューシルクロード東京プロジェクト」が進んでおり、ウズベキスタンをはじめとした中央アジアとの文化・医療交流がますます期待されている。引き続き行われたレセプションでは、本学からは北島政樹学長が代表して挨拶し、ウズベキスタンからわが国に寄せられる医療交流の期待に応えるべく、本学としても大いに協力していく旨を述べた。麻生太郎副総理（財務大臣・金融担当大臣）、二階俊博衆議院予算委員長、甘利明経済再生担当大臣もご挨拶され、日本政府の関心の高さが窺われた。本フォーラムでは、ウズベキスタンからわが国への期待度の高さが一貫して窺われ、今後のさらなる協力関係の発展が望まれる。

●左から長谷川フジ子氏、北島政樹学長、松本謙一実行委員長、麻生太郎副総理
ガニエフ・エリョール・マジドヴィチ大臣、長村義之教授

（国際医療福祉大学三田病院　総務企画課）

大田原キャンパス
栃木県骨髄バンク事業功労者として感謝状を授受

本学は、定期的に来校する献血車への協力や大学祭での呼びかけで、毎年一〇〇人規模の新規献血・骨髄バンク登録がある。このことが「骨髄バンク事業について積極的に普及啓発活動に協力し、多大な貢献をした」と評価され、同推進連絡協議会から感謝状が贈られた。

同協議会によると、単年度の登録者数は平成一二年度から減少傾向にある。原因として、協力する企業などでの登録がひと通り終わったことや、高齢化に伴い、登録可能の上限である五四歳を超えた登録者を抹消することなどが挙げられるという（登録可能者は一八歳～五四歳）。

なお、三月一〇日には栃木県保健福祉部から、人口千人あたりの骨髄バンク提供希望登録者数が、栃木県は全国三位になったと発表された。

医療福祉の総合大学である本学としては、今後とも、献血および骨髄バンク登録の普及に積極的に取り組んでいきたい。

●大学祭（風花祭）に来校した献血車

（総務課　豊島功）

保健医療学部　看護学科
平成二五年度卒業前研修会

三月六～七日、卒業間近の四年生を対象に「卒業前研修会」を実施した。

就職前後の不安を軽減し、現場に速やかに適応することを目的とし、今回で五回目となる。今年は、医療事故を起こさないために必要な危険予測に関する知識の向上にねらいを絞り、一日目は基本的技術項目として、フィジカルアセスメント技術や注射（筋肉注射・静脈注射）、輸液ポンプ・シリンジポンプの管理、移乗介助技術の修得。二日目はリスクアセスメント力強化プログラムとして、複数の状況設定に対する危険予測と対応を実施した。

二二名が受講し、「入職してからのイメージができた」、「まだ不安はあるが、やる気とやりがいを自覚し、意欲が高まった」との声があり、当初の目的を達成するとともに、専門職として働く自覚を促すよい機会になった。

●研修を終えて

●輸液ポンプの研修中

（教授　松本明美）

保健医療学部　視機能療法学科
臨地実習指導者会議開催

二月二一日、平成二六年度臨地実習に向け、二二施設二五名の指導者参加のもと、東京青山キャンパスで実習指導者会議を開催した。

北島政樹学長のご挨拶、新井田孝裕学科長の学科の現状報告の後、実習指導者のお立場から、特任臨床准教授の根本加代子氏、石井敦子氏にご講演いただいた。視能訓練士協会の卒後教育にも携わられ後進の指導経験豊富な両氏は最近の学生の特性をよく把握され、褒めることで自主的な学びを促すことの重要性を示された。綿密な実習計画や話しかけやすい雰囲気づくりなど、実習指導についての具体的なお話は、参加された他の施設指導者にも大変好評であった。送り出す大学側としても感謝とともに、臨床へのスムーズな連携のために何が必要かを考えさせられる貴重な機会となった。今後も学生たちが少しでも質の高い学びが得られるよう、努めていきたい。

●講演中の根本加代子氏（上）と石井敦子氏（下）

（准教授　小町祐子）

オーストラリア研修
学び多き オーストラリア冬期研修

小田原保健医療学部　看護学科
講師　大谷喜美江

一月二七日より約二週間、学生二一名（大田原キャンパス一三名、小田原キャンパス八名）と教員二名が、ゴールドコーストにある専門学校ＴＡＦＥの研修に参加した。オーストラリアの保健医療福祉事情が学べるように構成され、ＴＡＦＥのサウスポートキャンパスを拠点にさまざまなプログラムに参加した。保健医療関連講義、フットマッサージや移乗動作の体験実習のほか、私立病院や老人ホーム、空港にあるケアフライト施設（患者輸送用ヘリ、ジェット機を装備）を見学した。学生は積極的に質問し、海外の事情を学ぶ意欲の高さに教員が刺激を受けるほどであった。

日本文化の紹介では、折り紙、ビンゴゲーム、歌がいずれも大好評で、たくさんの笑顔や拍手をいただいた。ホームステイ先との交流で得たものも大きく、別れに学生が涙する場面もあった。

●ケアフライト見学実習

「当たり前の医療」の違い

小田原保健医療学部　看護学科
二年　富田千恵美

私が感じたオーストラリアと日本との違いは、医療者の身体への配慮である。患者さんを移動させる際に看護師の身体の負担にならないよう、ボディーメカニクスを活用するのは日本と同じだったが、オーストラリアでは患者さんを移動させる機械を備えたり、ベッドからの移動時に表面が滑らかなシーツを使用したりなど、病院側が配慮している。さらに、医療者が患者さんを運ぶことが法律で禁止されており、病棟では看護師や理学療法士などが一〇kg以上の物を持ち上げることが禁止されている。オーストラリアでは福祉サービス中の労災が適応されることが多い。たとえば、仕事中に腰を痛めた際に労災が適応されるため、病院側のコスト負担が増大する。そのため、予防にコストをかけた方がビジネスとしても有益なのだ。日本も医療者の身体とビジネスを考慮し、医療者の怪我の予防に力を入れていくことが重要であると感じた。

●屋外に設置されたリハビリテーションを行うための平行棒

同窓会通信

IUHW Alumni Association Report

Vol.3

ごあいさつ

同窓会「マロニエ会」代表幹事　上田清史

三月に最も歴史のある大田原キャンパスの保健医療学部（旧保健学部）一六期生が卒業し、本学同窓会は、大学院修了生も含め一六〇〇〇人以上の同窓生を抱える会となりました。同窓生の皆様におかれましては、全国各地の医療福祉の現場をはじめ、各方面でご活躍のことと思います。

私は大学開学時に、第一期生として入学しました。大田原市の郊外に新設された小さなキャンパスでしたが、「日本初の医療福祉の総合大学」に夢を持った仲間が全国各地から集まり、それぞれが学生生活を謳歌しました。早いものであれから二〇年が経とうとしています。今ではキャンパス内に関連施設や講義棟も増え、立派な大学に様変わりしました。同窓会幹事会議はさまざまな世代の卒業生が集まるので、「あの施設はあった、その設備は知らない」と、思い出話が止まりません。また、福岡保健医療学部、小田原保健医療学部、福岡看護学部と各地にキャンパスができ、本学の理念を共有し、「共に生きる社会」の実現をめざす仲間が増えました。さらに、赤坂や成田市に新キャンパスを設置する計画が進んでいます。母校が発展していくことはまことに喜ばしく、ひとりの卒業生として誇らしく思います。

●昨年7月、同窓会総会後の懇親会で北島政樹学長と

同窓会は、いずれ社会に巣立つ後輩たちを温かく見守り、社会の先輩としてできうる支援を行う会としても機能しなければなりません。私たちに今何ができるかを改めて考え、会のさらなる充実を図っていきたいと思っております。また、同じ学び舎を巣立った同窓生の縦のつながりと、同じ職業・資格で結びつくキャンパス間の横のつながりを強め、各々の連携の場、自己研鑽の場を提供できる会をめざし、今後も同窓会運営を図っていきたいと考えております。

平成二六年度同窓会事業について

組織の改編

平成二六年度より、同窓会の実働組織体制を見直し、キャンパス所在地をベースに広域地域の支部会を立ち上げることになりました。

関東支部会　主に関東のキャンパス出身者

九州支部会　主に九州のキャンパス出身者

北京支部会　中国に帰国した本学留学経験者

並行してキャンパスがない地区においても規定を整備し、支部会立ち上げを支援していきます。

在学生への恒常的支援

運動会や大学祭など、学生主催イベントへの支援を行い、まずはすべての在学生に同窓会活動を知ってもらうことをめざします。

学際性の高いイベントとの合同開催

教職員の参加率が高く、日程も一定していることから、平成二六年度関東支部会を大学学会学術大会と同日開催とすることを計画中です。

―八月三〇日（土）・大田原キャンパス―

現在、タイムスケジュールを検討中ですが、関東支部会総会開催後、IPE（専門職種連携教育）を軸にした発表会、学科単位の分科会、学会と合同の情報交換会を開催する予定です。同窓会イベントの合間には学会学術大会の特別講演やシンポジウム、ポスター発表等をご覧いただくことも可能です。ぜひ、卒後研修も兼ねてご参加ください。

全国的な組織づくり

●大学Gmailの拡大整備

昨年一二月に全卒業生向け連絡用メール（大学Gmailサービス）を拡大整備いたしました。今後は月に一回のペースで、同窓会・大学主催イベントの案内や、参加型の企画情報をメールマガジンで配信していく予定です。

※大学Gmailのご利用方法については、同窓会ホームページをご確認ください。

URL：http://maronie.iuhw.ac.jp/

●大学広報誌『IUHW』の活用

現在、全同窓生に年四回、大学広報誌を郵送しています。同窓生の意見を取り入れ、九五号から同窓会専用ページ「同窓会通信」を設けました。同窓生の近況やGmailでお寄せいただいた情報等を随時、掲載していきたいと思います。

●同窓会ホームページのリニューアル

同窓会情報の発信ツールのひとつとして、同窓会ホームページ（本部）を整備し直しました。新着情報やイベントカレンダーを見やすくまとめ、デザインも好感が持てると好評いただいております。同窓会・大学主催イベントだけではなく同窓生に関する情報も掲載できます。情報の掲載を希望する同窓生は、同窓会事務局までご連絡ください。

●同窓会Facebookの立ち上げ

同窓会幹事会議内でSNS（コミュニティ型のWEBサイト）の立ち上げが提案されました。現在、実現に向けて調整を進めています。

●3月12日大田原キャンパス謝恩会での一枚。学位記伝達式での袴姿からドレスに変身。涙と笑顔の一日となりました。

同窓会事務局からのお願い

連絡先不明者について

同窓会ホームページに掲載しております。リストに記載されている不明者への連絡が可能な方は、お手数ですが本人に連絡いただくか、本人の了解を得た後、同窓会事務局へ情報をお寄せくださいますようよろしくお願いいたします。

国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」事務局
〒324-8501　栃木県大田原市北金丸2600-1
国際医療福祉大学　学生課内
TEL：0287-24-3055　FAX：0287-24-3140
Mail：office.maronie@iuhw.ac.jp
URL：http://maronie.iuhw.ac.jp/

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

2015年度 入学生募集
学内推薦入試・入学金免除・奨学金制度あり
（本学卒業生及び卒業見込者対象）

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス　大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。

②カリキュラム　多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。

③同時双方向遠隔授業　複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS　**ホームページで、大学院紹介ムービーを公開中。大学院総合パンフレット、分野のパンフレットもダウンロード可能です。**
●ホームページはこちら：http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/
●Facebookはこちら：https://www.facebook.com/iuhwgs
●Twitterはこちら：https://twitter.com/iuhw_grad

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

修士課程
- 保健医療学専攻
  - ●看護学分野
  - ●ナースプラクティショナー養成分野
  - ●助産学分野
  - ●理学療法学分野
  - ●作業療法学分野
  - ●言語聴覚分野
  - ●視機能療法学分野
  - ●福祉支援工学分野
  - ●リハビリテーション学分野
  - ●放射線・情報科学分野
  - ●生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉経営専攻
  - ●医療経営管理分野
  - ●診療情報アナリスト養成分野
  - ●医療福祉国際協力学分野
  - ●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
  - ●医療福祉学分野
  - ●医療福祉ジャーナリズム分野
- 臨床心理学専攻

博士課程
- 保健医療学専攻
  - ●看護学分野
  - ●助産学分野
  - ●理学療法学分野
  - ●作業療法学分野
  - ●言語聴覚分野
  - ●視機能療法学分野
  - ●福祉支援工学分野
  - ●リハビリテーション学分野
  - ●放射線・情報科学分野
  - ●生殖補助医療胚培養分野
  - ●医療福祉経営学分野
  - ●診療情報管理・分析学分野
  - ●医療福祉国際協力学分野
  - ●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
  - ●医療福祉連携学分野
  - ●医療福祉ジャーナリズム分野
  - ●医療福祉心理学分野

薬学研究科　博士課程（4年制）
- 医療・生命薬学専攻

薬科学研究科　修士課程
- 生命薬科学専攻
  - ●生命薬学分野
  - ●医療薬学分野

大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com　好評配信中

主な配信番組

●理学療法分野
第47回日本理学療法士協会全国学術研修大会(鹿児島)

●作業療法分野
作業療法フォーラム2012、第51回作業療法全国研修会(岩手)

●言語聴覚分野
摂食・嚥下
リハビリテーションの実際

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・
自立支援介護2013

●医療・福祉・経営実務
日本総合健診医学会(第42回大会)
※無料配信、
医薬品マネジメント2013※無料配信、
医療シンポジウム
「医療改革への処方箋」※無料配信

●厚生労働省情報
全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議（平成26年2月25日開催）※無料配信
社会・援護局関係主管課長会議（平成26年3月3日開催）※無料配信

●乃木坂スクール
遺伝子診断、治療とその問題点

●受験講座
ケアマネジャー受験講座

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト　「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
文学論、死生学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、医学／医療史、健康科学理論、リスクマネジメント論、メディカルマナー入門、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 97 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4　☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室　☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン
写真：米山真人

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

ⓒ国際医療福祉大学2014　Printed in Japan　禁無断転載・複写

先輩が伝授！初めてのひとり暮らしのためのお役立ちアドバイス！

この春ひとり暮らしを始めた新入生に、先輩が「生活の知恵」を紹介します。夜こっそり涙していた（?）4月が過ぎて、いよいよ自分らしい生活のペースを作っていく5月になりました。先輩の体験談をぜひ参考にしてください。

わたしのおすすめメニューはこれ！

保健医療学部 看護学科2年
小松磨実さん
宮城県石巻高校出身

母が料理が上手なので、手伝いをよくしていました。入学前はざっとおさらいもしましたが、最初のころは、わからないとすぐに電話で聞いていました。

フライパンは大小揃えておくと便利。フタ付きがおすすめです。

帰省した時に食べたいのは、母の「シーフードグラタン」です。

簡単でヘルシー 豆腐ハンバーグ

◇**材料（1人分）**
・豚ひき肉…100g　・木綿豆腐…100g
・たまねぎ…1/4個　・卵…1/2個
・塩コショウ…適量

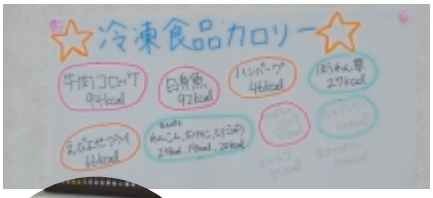
◇**作り方**
①みじん切りにしたたまねぎを炒める
②豆腐をレンジで温めて水切りをする
③材料を混ぜて、形を整える
④フライパンで焼く

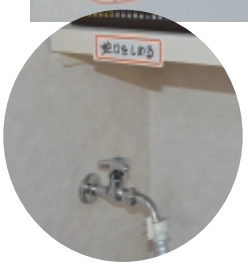
ソースはお好みで。フライパンで醤油、みりん、料理酒を軽く煮詰めると、和風ソースのできあがり。

余った卵はスクランブルエッグに。栄養のバランスを考えて、ホウレンソウを添えました。

残りはラップして冷凍。お弁当に使っています。

お弁当によく冷凍食品を使いますが、意外とカロリーが高いので、要注意!





洗濯機の給水栓。「使わない時は蛇口をしめる」は父のアドバイスです。開けっ放しにしておくと、地震などで万一外れたら、部屋が水浸しになります。

掃除機はあまり使わないので、しまったままになっています。カーペットはコロコロ、フローリングは使い捨てシートのモップが重宝しています。

わたしのおすすめメニューはこれ！

保健医療学部 言語聴覚学科3年
吉岡拓也さん（左） 福島県立郡山高校出身
保健医療学部 言語聴覚学科3年
湯澤亮太さん（右） 栃木県立足利高校出身

ひとり暮らしの最初は、やはり食べることが大きなテーマでした。そんな時は、近くの友だちが頼りになります。友だちが遊びにきていっしょに食べることもあるので、食器は何でもいいので3人分くらいあると困りません。

帰省した時に食べたいのは、母の「から揚げ」と「カレー」です。（吉岡）

母の手料理は全部おいしい。（湯澤）

これなら失敗なし チキンのトマト煮込み

◇**材料**
・鶏もも肉　・たまねぎ　・にんにく
・カットトマトの水煮缶
・調味料（みりん、砂糖、しょうゆ、ソース）

◇**作り方**
①スライスしたにんにく、たまねぎ、鶏肉を順に炒める
②カットトマトを汁ごと入れて煮込む
③味付けは調味料を少しずつお好みで

具だくさん コンソメスープ

◇**材料**
・しめじ　・セロリ　・ソーセージ　・コンソメ

◇**作り方**
きざんだ材料をコンソメスープで煮るだけ。セロリは葉も全部使えます。

弁当を作っています。冷凍食品に頼りがちになるので、栄養のバランスを考えて、野菜の惣菜を常備しています。

通学は車ですが、近場の買物などは自転車を使ってガソリン代を節約しています。自動引き落としの人が多いと思いますが、光熱費がどのくらいかかっているのかも知っておくといいと思います。

トマトの水煮缶、オリーブオイル、ハーブソルトが便利。簡単に本格的な料理が作れます。トマトの水煮缶はカットとホールがあるので使い分けてください。

部屋にいろいろな勧誘がきます。初めの頃は出て応対していましたが、最近は居留守を使っています。中には悪質なものもあるので、くれぐれも注意してください。